

公益財団法人アイメイト協会

平成26年度(2014) 事業報告

1. アイメイトの育成訓練及び研究開発

(イ) 【候補犬の訓練】

	訓練内容	適要
1 ヵ月	性格・素質判定と健康管理	◇ 性格並びに素質を観察 ◇ 健康診断の後、健康上問題のない適性犬は、避妊或いは去勢手術・各種ワクチンを接種。
4 〜 5 ヵ月	基礎訓練	アイメイトとして必要な課目を教え、服従心と学習への態度の基礎を作る。
	誘導訓練	ハーネスを付け盲人の歩行時の、障害となるもの、又は危険な物を告知し、或は回避する訓練
	仕上げ及びテスト	指導員が目隠しをして、訓練の完全度をテストする。
4 週間	歩行指導	アイメイト使用を希望する視覚障害者4名1クラスを原則に、宿泊により指導する。

(ロ) 【種犬の充実と候補犬の質の向上】

候補犬の資質がアイメイトの実績に大きく関わるので、繁殖犬の選定・組み合わせを考慮した。

種牡・台牝の補充は相応しいと思われる犬がおらず購入には至らなかった。また種牡候補犬をシーイング・アイにも依頼し、先方より打診はあったが健康面で懸念があったので選択しなかった。

2. アイメイトによる盲人の歩行指導並びに日常生活指導

(イ) 【調査】

アイメイト使用希望者に対しては、アイメイトによる歩行指導の可否を判断するため面接調査を実施した。また、使用希望者の質疑に答えたり、実際にアイメイトとの歩行体験をさせたりする事により、安心感を持たせることに努めた。

アイメイトを使用することにより『積極的に社会参加を目指す意欲』があることを重要ポイントとして調査した。

(ロ) 【歩行指導実施状況】

回数	期	人数	期 間
1	424	3	'14. 4.19 ~ '14. 5.17
2	425	4	'14. 5.24 ~ '14. 6.21
3	426	4	'14. 6.28 ~ '14. 7.26
4	427	4	'14. 9.06 ~ '14.10.04
5	428	4	'14.10.11 ~ '14.11.08
6	429	4	'14.11.15 ~ '14.12.13
7	430	2	'15. 1.10 ~ '15. 2.07
8	431	4	'15. 2.14 ~ '15. 3.14
計			29

(ハ) 【歩行指導内容】

入 校 (土曜日)		
視覚障害者への	盲人の歩行状態テスト 性 格 観 察	チェーンカラー・引き紐・ハーネスの扱い方、 指導員によるハーネス歩行
	ペ ア 決 定	
	各人の犬を決定し、パートナーを作るが犬と人の性格の一致が重要である。	指示語、誉め方・叱り方と意義・ハーネスの付け方 等
歩行指導 (土曜日から4週間)		
歩行指導	歩行指導開始、各週毎に定められたコースを歩く 第一週： 毎日1.6 ~ 3.2km 第二週： 〃 2.1 ~ 4.2km 第三週： 〃 3.4 ~ 6.8km 第四週： 〃 4.8 ~ 9.6km 全体で約 120km の行程をマスターする。 各週末にテストを行い、進捗状況をチェックする。	歩き方の基本及び姿勢、コーナーの練習、 服従、分岐点、人車道の区別、 歩道橋、信号判断の方法、人車道の区別のない道の歩行、ガードレール内の歩行、繁華街、レストラン、エスカレーター、エレベーター、踏切、電車や自動車の利用法、排便の始末、犬のシャンプー、ブラッシング、犬の餌の作り方、体重測定 等
講義内容	犬の管理及び衛生	飼料/内容・作り方・与え方 等 手入れ法/ブラッシング・シャンプー・耳掃除等・犬の歯磨き 等 犬の管理/ 正常、異常の区別、体重測定、投薬、検温、便の始末 等
	アイメイトの使用法	アイメイトの歴史・訓練・指示語・犬の心理及び表情 等。 社会との対応の仕方・アイメイトを使う側のマナー
上記の他にこの期間中、健常者と変わらない状態で生活するように(夜間の点燈、スマートな食事の方法等)指導する。		

(ニ) 【フォロー・アップ・サービス】

卒業生の歩行問題・環境・その他についての相談や質問は、本人から協会へ直接連絡する様に指導している。

その質問内容によって遠近に関わらず訪問指導を行い、卒業生の目としてアイメイトが充分に機能することを実施した。

3. 生活に関する各種相談及び歩行指導員の養成

(イ) 各種相談

使用者のあらゆる相談にも応じ、様々の指導を実施した。

使用者の犬具の整備、飼育・歩行及び管理に就いての相談や指導、本人の病気など特別な事情の場合の犬の預かり、死亡犬の供養、使用者の就職、住宅問題、公共施設の利用・宿泊問題等にも誠意を以て対応した。

(ロ) 指導員の養成

H26年度は2名採用したが、それぞれ6月と2月に本人からの申し出により退職した。

4. アイメイトに関する啓発

(イ) 【啓 発】

アイメイトを使用する環境の整備と向上の為に、一般社会への啓発運動として毎月最終土曜日を見学日として体験歩行も実施した。

企業からの依頼や学校・社協・ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ガールスカウト、ボーイスカウト等の要請にも可能な限り応じ、マスコミ・出版関係にも協力して啓発の促進を計った。

(ロ) 【広報活動】

アイメイトの理解に役立つ機関誌『アイメイト 46号』の発刊、その他広報活動を広げ、アイメイトへの理解者及び協力者の拡充を図るように努力した。

ホームページも適宜更新し、人に視点を置いた正しい情報を提供してゆく。協会で作成したDVDも貸し出し或いは頒布し、アイメイト協会の全体像・ポリシーを広めた。

(ハ) 【アイメイト・デー】

10月5日(日)、第38回アイメイト・デーをTKP竹橋に於いてに実施。雨天にもかかわらず約300名が参加した。

5. その他、目的達成に必要な諸事業

(イ) 【当協会の同窓会・後援会・飼育奉仕・繁殖奉仕者・サポート会の充実】

アイメイト協会同窓会は4月25日に総会を開催。11月22日にはくりはま花の国に於いてレクレーションを実施。いずれも協会は行事に協力した。CD通信ひろば(年4回)も配布され

た。

後援会はミニ通信発行や募金活動、チャリティーコンサート、チャリティー・グッズの頒布等を企画・推進した。4月17日には協会会議室にて総会も開催された。

飼育奉仕家庭(リタイア犬飼育を含む)及び繁殖奉仕家庭相談等にも積極的に対応。必要に応じて訪問フォローした。

サポート会員も層を広げる努力をした。各協力者の方々とも緊密な縦横の連繋を取りながら、アイメイトの総合的な発展及び啓発活動を行い、アイメイト育成事業の充実を計った。

(ロ) 【海外の盲導犬育成施設との交流】

我が国の盲導犬事業のリーダーとして積極的に技術の供与にも協力し、I.G.D.F.のメンバーとして、米・英・その他海外の盲導犬施設とも交歓・友好を通して情報・技術・種犬等の交流を拡大し、事業内容の一層の充実を計った。

各国の施設とも交流を持つと共にアイメイト協会の実力を世界に知らしめるべく努めた。